



カケハシ・プロジェクト（米国） 若手研究者招へい第1陣 プログラムの記録

1. プログラム概要

【目的】米国の9つの大学の若手研究者が来日し、ホームステイや学校交流、視察等を通じて日本文化や社会、歴史について理解を深めるとともに、参加者同士が交流を深めてネットワークの強化を図り、研究者の立場から日本の魅力を積極的に対外発信してもらうことを主目的として実施しました。

【参加者】米国若手研究者 計39名

（内訳）カリフォルニア州 カリフォルニア大学バークレー校（5名）、スタンフォード大学（2名）
コロンビア特別区 アメリカン大学（3名）、ジョージタウン大学（7名）
ニュージャージー州 プリンストン大学（4名）
マサチューセッツ州 タフツ大学フレッチャースクール（10名）
ミズーリ州 セントルイス・ワシントン大学（1名）
メリーランド州 メリーランド大学（4名）
ヴァージニア州 ヴァージニア大学（3名）

【訪問地】グループA：東京都、京都府、滋賀県

グループB：東京都、愛知県

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）

12月22日（金曜日）【来日前（渡航前）オリエンテーション】事業目的・ミッション、日程説明渡航注意、新型コロナウイルス感染症対策等

来日までの指定期間 【動画視聴】講義「日本と国連」、日本理解講義（Web Japan より選択）

■ 招へいプログラム：

1月9日（火曜日）羽田空港より入国

【オリエンテーション】

1月10日（水曜日）【視察】東京国立博物館

【視察】国会議事堂

【ブリーフィング】外務省北米局北米第一課

1月11日（木曜日）【講義・意見交換】「あなたがもし日本の首相だったら？」

講師：筑波大学 特命教授 谷口 智彦 氏

1月12日（金曜日）～15日（月曜日）

2つのグループに分かれ、グループAは京都府、滋賀県、グループBは愛知県を訪問。地方プログラム終了後、1月15日に東京都へ移動。

(1) グループA：東京都、京都府、滋賀県

【視察】パナソニックセンター東京

【視察】浅草

【視察・意見交換】人間文化研究機構 総合地球環境学研究所、グループディスカッション

【視察】金閣寺

【対面式・ホームステイ・歓送会】滋賀県東近江市

【日本文化体験】お守り作り（太郎坊宮）

【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

(2) グループB：東京都、愛知県

【企業訪問】新幹線総合指令所（東海旅客鉄道（JR 東海）指令室）

【視察】浅草

【日本文化体験】三州足助屋敷にて機織り体験（竹ひごコースター製作）

【視察】とよた ecoful town

【対面式・ホームステイ・歓送会】愛知県豊田市

【体験】Linimo（リニモ：愛知高速交通東部丘陵線）乗車

【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

1月15日（月曜日） 【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

1月16日（火曜日） 【視察】都内自由視察
羽田空港より出国

2. 記録写真

招へいプログラム

	
1月10日【視察】東京国立博物館	1月10日【視察】国会議事堂

	
1月10日【ブリーフィング】外務省北米局北米第一課	1月11日【意見交換・講義】「あなたがもし日本の首相だったら？」

グループA（訪問地：東京都、京都府、滋賀県）

	
1月11日【視察】パナソニックセンター東京	1月11日【視察】浅草
	
1月12日【視察・意見交換】人間文化研究機構 総合地球環境学研究所	1月12日【視察】金閣寺
	
1月13日【ホストファミリー対面式】滋賀県 東近江市	1月14日【ホストファミリー歓送会】

	
1月14日【日本文化体験】太郎坊宮（お守り作り）	1月14日【ワークショップ】

グループB（訪問地：東京都、愛知県）

	
1月11日【企業訪問】新幹線総合指令所（東海旅客鉄道（JR 東海）指令室）	1月12日【日本文化体験】三州足助屋敷にて機織り体験（竹ひごコースター製作）
	
1月12日【視察】とよた ecoful town	1月12日【ホストファミリー対面式】愛知県豊田市
	
1月14日【ホストファミリー歓送会】	1月14日【ワークショップ】

	
1 月 15 日【報告会】	1 月 15 日【報告会】 集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学院生

ホームステイは、日本の文化や生活様式、一般的な日本人の人生観や米国観を学ぶことができるまたとない機会だったと思います。ホストファミリーは皆とてもやさしく親切で、私たちが築いた絆は、米国と日本の社会をつなぐ、この先長きにわたって続く架け橋となることでしょう。

◆ 大学院生

JR 東海の新幹線総合指令所の訪問はとても興味深いものでした。もちろん新幹線について聞いたことはありましたが、全システムをあれほど正確に動かすために、どれだけの作業が行われているかを実際に見ることができたのは、とても貴重な体験でした。特に、新幹線は外国人が日本を語る上で象徴的な存在です。（ほとんどの米国人は新幹線について知っていて、とても素晴らしいものだと考えています。）特に興味深かったのは、指令所の視察後に実際に乗車する機会を得られたことです。アメリカの公共交通機関のように、新幹線を単に目的地への移動手段として理解するだけにとどまったかもしれません。指令所視察が出来て感謝しています。

◆ 大学院生

滋賀県東近江市のホストファミリーを訪問したことは、とても特別な経験でした。家族の一員として家庭に迎え入れられ、彼らの暮らしぶりをより知ることができたのは素晴らしいことでした。プログラムのすべてに満足しています。とてもよく構成されたプログラムで、日本社会の多様な側面を知ることができました。また、外務省を訪れ、谷口教授と安全保障問題や日米外交の課題について意見交換できたことも良かったです。

◆ 大学院生

今回の旅では、日本を講義や視察から学ぶ内容と日本文化を地方訪問や体験などで学ぶ内容とのバランスがとても良かったと感じました。このプログラムで最も印象的だったのはホームステイで、私たち一人ひとりが日本の文化を肌で感じることができました。家族と親しく交流し、料理を手伝ったり、お互いの生活について会話を交わしたり、彼らの日常生活について学んだ経験は、特に良かったです。また、「日本の首相」になった時をテーマにした教授の講義では、現在の日本が直面している最大の課題に対する教授の見解を聞くことができ、とても有意義でした。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 視察先

幅広い専門分野の方が参加されましたが、みなさんが広く興味関心を持ってプログラムに取り組んでくださり良かったです。専門が異なる参加者同士でどのように議論を進めればいいのか、手探りな部分もあったと思いますが、お互いにとって良い経験になったのではと思います。

◆ 協力団体

ホストファミリーがとても楽しそうに参加者を迎え入れたことを感じられたことが最大のポイントだったと思います。また、参加者も積極的に体験を楽しむ姿勢があり、相乗効果でよりよい体験になったものと思います。

◆ ホストファミリー

日本のお正月（餅つき、鏡餅、繭玉飾りなど）の体験をしていただき、文化紹介等できたと思います。

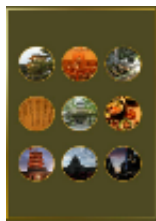
5. 参加者の対外発信（抜粋）

	
2024 年 1 月 10 日（Facebook 等） なんと素晴らしい日でしょう！ 日本へのカケハシ・プロジェクトの旅、最初の一日は素晴らしいものでした。日本の文化や政治について多くのことを学ぶことができ、この先、もっと多くを学べるのが楽しみです。この日の最初の訪問先は東京国立博物館で、日本の歴史と芸術を学びました。午後は、日本の立法府である国会議事堂を見学しました。最後に外務省を訪問し、ブリーフィングを受けました。今日の学びを自国の公共政策の取り組みにどのように反映するか考えるのがすごく楽しみです。今日一日の経験だけでも満足しています。この後どのような続きがあるのか見るのが待ちきれないです。	2024 年 1 月 10 日（Instagram） 今日もまた、カケハシ・プロジェクトは素晴らしい一日でした。日本の外務省と日米外交について議論し、パナソニックの過去、現在、そして未来のイノベーションについて学び、権威ある教授であり広報外交の専門家の教授と意見を交わし、浅草を訪れました！

	
2024 年 1 月 12 日（Facebook） 名古屋城、浅草と名古屋の神社、そして東京の国立博物館に行くことができました!カケハシ・プロジェクトを通じて日本の長い歴史と文化を学ぶことができたのは、とても光栄なことです。国立博物館では1万2千年の歴史が学べ、伝統的な美術品や文字、衣服など豊富な展示品を見ることができました。	2024 年 1 月 12 日（Instagram） カケハシ・プロジェクト 4 日目：初めてづくしの日!初めて新幹線に乗り、車窓から富士山が地平線上でどんどん大きくなっていくのを見ました。初めて京都に行き、グループで総合地球環境学研究所の研究者とディスカッションをしました。金閣寺を訪れるのも初体験。お寺の金色の正面が、雨に濡れた湖面に映って輝いていました。そして、初めて湯豆腐を食べました。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

グループ A（訪問地：東京都、京都府、滋賀県）全 3 グループのうち発表一例

 Kakehashi Reflections A-3 Action Plan We will work with our respective universities to create a blog post detailing our experiences in the Kakehashi program. Flinders: Flinders' Office of Communications & Public Relations will post an article on Flinders' website and share it on LinkedIn and Facebook. The post will feature Kakehashi participants and what they learned about Japan during our trip. UoM: Kakehashi: The Center for Japanese Studies at the University of Melbourne will post a series of blog posts, available online and the University will share the Kakehashi project, study, culture, and climate on its social media channels. We will share our experiences during the Kakehashi Project, in both words and images, based on the following themes: culture, history, and society. Stanford: The Freeman Spogli Institute for International Studies will post a blog post on the SIFSI website and share it on campus, for Stanford's site. The Center for Japanese Studies will post a blog post on the Center's website and share it on campus, for the Center's site. The Center for Japanese Studies will post a blog post on the Center's website and share it on campus, for the Center's site. 	【訪日中の学びと気づき】 日本が現在直面している課題として、高齢化、気候変動、経済の変遷、海洋安全保障の脅威があります。さらに、私たちは日本の社会構造や家族の在り方、自然や地域との関わり方を感じ、歴史や文化の保存、自然との融合、建築物への独自のアプローチを直接体験することができました。 【アクション・プラン】 参加者は、3か月以内に所属大学の関係機関と協力して、カケハシ・プロジェクトでの経験を共有します。 1. タフツ大学フレッチャースクール：大学の広報・マーケティング室に、フレッチャースクールのウェブサイトに参加者の記事を掲載してもらい、LinkedIn や公式 Facebook、Instagram の
--	---

アカウントで宣伝します。記事の内容は、参加者が訪日中日本について学んだことの紹介です。

2. カリフォルニア大学バークレー校：本校の日本研究センターに、ブログの連載を立ち上げてもらい、オンライン上で公開してもらう他、同大学の教職員、学生、卒業生、そして日本のパートナーや研究者にもメールで配信してもらいます。ブログは、カケハシ・プロジェクトでの経験を、文化、歴史、未来というテーマに焦点を当て、文字と画像の両方で共有する計画をしています。
3. スタンフォード大学：フリーマン・スポングリ国際研究所に依頼し、外務省の担当者を招いて、学内で講演を行います。（学内の）ショーレンスタインアジア太平洋研究センターに、カケハシ・プロジェクトでの体験に関するブログ記事を掲載してもらいます。また、日本への留学や将来の交換プログラム参加を希望する学生を対象にしたパネルディスカッションの開催や、キャンパス内での共同文化活動を行うようジャパン・クラブに働きかけます。

グループ B（訪問地：東京都、愛知県）全 2 グループのうち発表一例



Action Plan					
What?	To whom?	When?	Where?	Why?	How?
Participants in the Kakehashi program	Japanese Graduate School Exchange students	During the middle of spring semester	Respective local and international communities	To foster understanding, friendship and exchange between the United States/Japan	By working closely with both the Japanese department and student organizations
Those who are pursuing careers in Japan or knowledge of Japan					



【訪日中の学び】

- ・環境：長期的な持続可能性の促進に重点を置いており、特にエネルギー分野での取り組みが顕著であること。
- ・外交：FOIP など、アジア地域のリーダーとしての政策を推進していること。
- ・文化・伝統：「伝統と現代の融合」がキーポイントであること。

【日本での経験を自分のキャリアにどう活かしていくか】

- ・国際関係：日本の南半球諸国への JICA の援助・支援のあり方を研究。
- ・「FOIP」構想を通じて日米の技術・ビジネス協力の促進に関わる。

【アクション・プラン】

参加者の所属大学の日本語学科や学生会と密接に連携し、学内の大学院生・学部生の会の日本人学生や日本または外務省への就職を目指す学生などを対象に、日米間の理解、学習、交流を促進します。

また、春期中に各大学内での実施を予定しています。

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）